

## 第3回町田市文化プログラム実行計画策定検討委員会 議事要旨

<b>日時</b>	2017年8月22日（火）午後6時～8時
<b>会場</b>	町田市役所 10階 会議室 10-2・3
<b>出席者</b>	<p>■委員 香取幸一委員長、三上豊委員、岡田万里子委員、青島充宏委員 大久保明委員、仕田佳経委員、高野賢二委員</p> <p>■事務局 文化スポーツ振興部 能條、小田島 文化振興課 清水、戎谷、鈴木</p> <p>■運営支援 株式会社丹青研究所</p>
<b>資料</b>	資料1 町田市文化プログラムの申請促進に向けた取り組み

### 会議内容

#### 1. 第2回検討委員会の振り返り

＊事務局より前回の主な意見等を説明し、振り返りを行った。

#### 2. 議事

(1) 町田市文化プログラムの申請促進に向けた取り組みの検討

1. 市民企画公募の仕組みづくり

##### ■意見交換等

委員： 公募の呼びかけ前に、文化プログラムの基盤づくりとして、町田市について知ってもらう取り組みが必要である。町田市の郷土や文化を知るための資料のようなものが必要である。

委員： 郷土や文化を知るためには、戦争や前回の東京オリンピックに関する市民の証言集等も考えられる。  
また、学校を巻き込むような広報展開も、必要だろう。

事務局： 町田市は、非核平和都市宣言をしている。担当する企画政策課では、戦争体験に基づく証言を集めた書籍を発行している。戦争体験以外の内容についても、先人の証言を残すことは意義があると考えている。  
学校へ向けた広報については、適宜対応したいと考えている。

委員： 自薦以外に、支援団体や後見人等による他薦も含むことで、障がい者も参加しやすくなるのではないか。  
また、障がいの有無にかかわらず、予算があれば参加したい方もいるだろう。  
「まちだ〇ごと（まちだまるごと）大作戦 18-20」のように、グループワークを行うことで、申請促進につながるのではないか。

事務局： 公募の実施方法と併せて、検討していきたい。

委員： 申請促進という点でいえば、補助金の額も関係すると思う。また、市内各所での開催を目指すならば、市内の複数か所で行うプログラムに対し、助成するという方法もあるだろう。  
また、申請促進には、場所の提供も有効である。町田市民ホールは、1年以上前から日程を確保する必要があるが、地域センターは3ヶ月ごとに公募するため、インセンティブとして提供しやすいかもし

れない。ただし、市民の利用に配慮する必要がある。

事務局： 施設の優先予約等も含めて、インセンティブの仕組みを検討していきたい。

委員： 認定基準としては、町田市ならではの文化芸術を盛り込むこと、といった視点もあるのではないか。

事務局： 認定基準の基本となるのは、町田市文化プログラム推進計画の基本方針等であると考えている。

委員： 申請促進に向けて、参加が予想される団体等への直接的な呼びかけが必要だろう。  
また、プログラムを検討しやすいように、分かりやすいキーワードを設けてはどうか。

事務局： 事務局としては、申請促進に向け、町田市文化プログラムや市民企画公募について、文化芸術団体等に直接説明するということも必要であると考えている。  
また、キーワードについては、町田市文化プログラム推進計画に示した将来像や基本方針等を踏まえて、検討することも必要であると考えている。

委員： 先ほど提案のあった郷土史に関する情報発信は、文字情報のほかに映像を加えてはどうか。その他、例えば制作過程に障がい者が参加する、多言語対応するなどしてはどうか。

事務局： 認定基準の検討は、本検討会議終了の後に策定委員会等を設けたいと考えている。

委員： ある一定期間のみ、市の共催事業のために市内施設を提供することはできないのか伺いたい。

事務局： インセンティブとしての施設の優先利用については、市の共催事業とは分けて検討する必要があると考えている。また、施設の管理者側との調整も必要となるが、検討していきたい。

委員： インセンティブの1つとして、多言語化というもあるのではないか。

委員： 学生のなかには、通訳ボランティアとしての活躍を希望する人もいる。大学との連携について、検討してほしい。  
また、インセンティブについては、実施のための補助金や場所の提供のほかに、町田市の文化芸術を発信してくれたことをたたえ、市長から感謝状を贈るという方法も考えられる。他にはない取り組みとして、話題性の創出にもつながるだろう。

## 2. 町田市文化プログラムの広報戦略

### ■意見交換等

委員： 口コミでの情報拡散も、念頭に置くと良いだろう。

委員： 町田駅前のペDESTリアンデッキにある電光掲示板や、バスの車内広告も活用してはどうか。

- 委員： 回覧板を活用する場合、情報伝達には時間を要することに配慮する必要がある。
- 事務局： 回覧板の活用には、町内会や自治会の協力が必要である。回覧板での情報発信は、町田市文化プログラムの概要や市民企画提案型事業の公募に関する案内など、基本的な情報になると予想している。
- 委員： 「広報まちだ」の発行が一月に2回と削減され、情報掲載の機会が減ってしまった。また、SNSを活用した情報発信には、マンパワーの確保も必要となる。
- 委員： 「広報まちだ」による情報発信は、大変効果的であると実感している。また、ポスターは、掲出場所の確保の難しさや、掲出のタイミングのずれが懸念される。
- 委員： 申請促進には、参加が予想される団体の代表へのDM発送や、説明会の開催などが効果的だろう。
- 事務局： 説明会の開催については、検討したい。
- 委員： 地域情報誌「まちびと」の活用はできないか。
- 事務局： 所管課と調整を図りたいが、季刊誌のため、情報の即時性は望めない。

## (2) その他

### 1. その他

#### ■意見交換等

- 委員： 来訪者に向けては、プログラム情報と併せて市内の案内マップも提供する必要があるだろう。来訪者を呼び込むための広報戦略についても、検討してはどうか。
- 委員： ラグビーワールドカップが開催される2019年に、南アフリカをテーマとしたプログラムを実施するなど、効果的な取り組みの検討が必要である。
- 事務局： ホストタウンである南アフリカの事前キャンプ地は、今年の秋以降に決定する予定である。
- 委員： 鶴川ショートムービーコンテストを中心市街地でも開催するなど、文化プログラムの期間中に、核となる事業が必要である。
- 委員： レガシーの創出を考えると、市民が意見を出し合いながらつくりあげてゆく取り組みが必要である。「まちだ〇ごと（まちだまるごと）大作戦 18-20」のように、グループワークを行うことで、企画が進んでいくのではないか。
- 委員： 大学が多くあるという特徴を生かし、学生に参加してもらってはどうか。
- 委員： 「二十祭まちだ」は新成人たちがどの程度主体的に取り組んでいるものなのか伺いたい。

事務局： 「二十祭まちだ」は、新成人を主体とした実行委員会により実施しているが、主体性の高さは年度により異なる。実行委員会への参加募集は、DM発送により行い、毎年10名ほどが集まる。6月から1月まで週1回の頻度で実行委員会を開催している。

## 2. 次回開催について

事務局： 第4回検討委員会は、10月の第1週か第2週で調整させていただきたい。  
また、次回検討委員会の開催までに、町田市文化プログラム実行計画の骨子案を、メールにてお送りし、ご意見をいただきたいと思いますと考えている。